

平成26年（2014）6月 入域観光客数概況

6月の観光客数は、55万7,300人
対前年（H25）同月比 +6万8,200人、+13.9%
～6月の過去最高を記録、外国客は2ヶ月連続9万人超～

入域状況

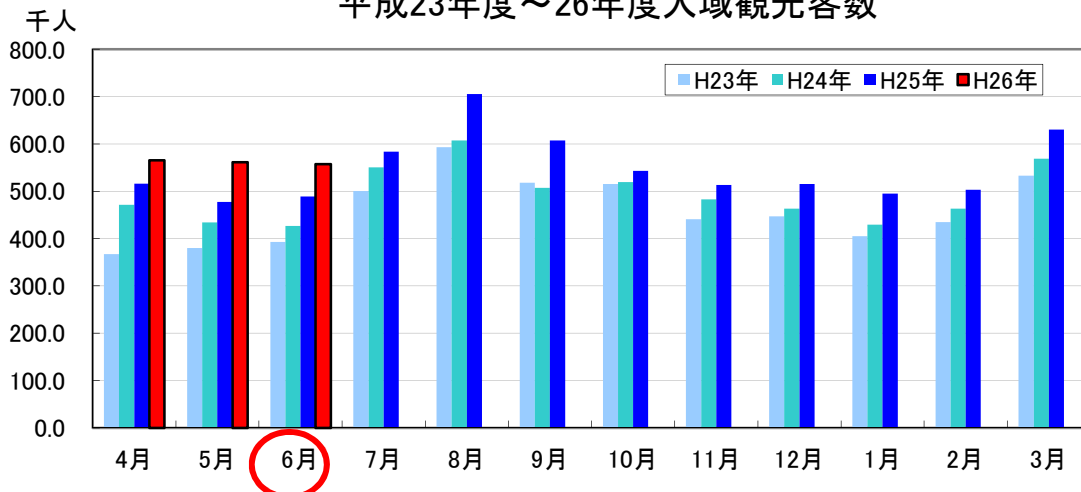
入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を含む

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	82.9%
外国客	95,500 人	62,500 人	+ 33,000人	+ 52.8%	17.1%
合計	557,300 人	489,100 人	+ 68,200人	+ 13.9%	100.0%

【参考】入域観光客数（平成25年度との比較） ※外国客については、乗務員等を除く

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
国内客	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	84.7%
外国客	83,700 人	53,700 人	+ 30,000人	+ 55.9%	15.3%
合計	545,500 人	480,300 人	+ 65,200人	+ 13.6%	100.0%

平成23年度～26年度入域観光客数



国内客 入域状況

6月は、各方面とも好調に推移し前年度を上回った。LCC3社の減便があったものの、沖縄方面全体の提供座席数は前年度並みであったため、影響は大きくなかった。

7月は、上旬の台風8号の影響とUSJの新アトラクションによる関西方面との競合が懸念材料だが、夏場の旅行需要に加え、航空会社各社の増便や沖縄方面の旅行人気、夏季賞与の増額も後押しとなり、引き続き好調に推移する見込み。

外国客 入域状況

6月は、上旬の連休による旅行需要が旺盛であり、空路客が路線拡充により大幅に伸びたこと、クルーズ船の寄港により海路客も好調であったことなどから、3ヶ月連続で過去最高となった。

7月は、国内同様上旬の台風の影響があるものの、航空路線の増便やチャーター便の就航およびクルーズ船の寄港が予定されており、空路・海路ともに増加する見込み。

国内客 地域別入域状況

区分	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
東京方面	220,100 人	205,500 人	+ 14,600人	+ 7.1%	47.7%
関西方面	100,000 人	92,100 人	+ 7,900人	+ 8.6%	21.7%
福岡方面	55,700 人	52,500 人	+ 3,200人	+ 6.1%	12.1%
名古屋	37,500 人	36,200 人	+ 1,300人	+ 3.6%	8.1%
その他	48,500 人	40,300 人	+ 8,200人	+ 20.3%	10.5%
合計	461,800 人	426,600 人	+ 35,200人	+ 8.3%	100.0%

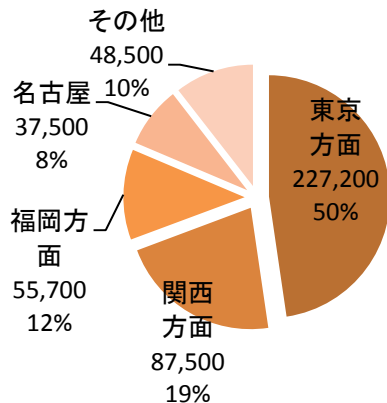
※国内海路客4,400人を含む(東京方面:100人、関西方面:200人、鹿児島:4,100人)

外国客 国籍別入域状況

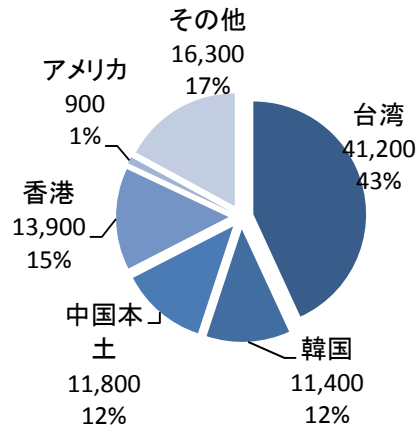
増減数及び増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	H26年度	H26年度	H25年度	増減数	増減率	構成比
	(乗務員等含む)	(乗務員等除く)	(乗務員等含む)			
台湾	41,200 人	41,200 人	28,900 人	+ 12,300人	+42.6%	43.1%
韓国	11,400 人	11,400 人	6,400 人	+ 5,000人	+78.1%	11.9%
中国本土	11,800 人	11,800 人	4,400 人	+ 7,400人	+168.2%	12.4%
香港	13,900 人	13,900 人	9,100 人	+ 4,800人	+52.7%	14.6%
アメリカ	900 人	900 人	1,000 人	△ 100人	△10.0%	0.9%
その他	16,300 人	4,500 人	12,700 人	△ 3,600人	+28.3%	17.1%
合計	95,500 人	83,700 人	62,500 人	+ 33,000人	+52.8%	100.0%

国内客の地域構成比



外国客の国籍構成比



外国客 空路・海路の国籍別入域状況

増減率は、乗務員等を含む数値の比較

区分	空路				海路			
	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比	観光客数 (乗務員等含む)	観光客数 (乗務員等除く)	増減率	構成比
台湾	29,700 人	29,700 人	+55.5%	43.2%	11,500 人	11,500 人	+17.3%	42.9%
韓国	11,400 人	11,400 人	+78.1%	16.6%	0 人	0 人	-	0.0%
中国本土	8,400 人	8,400 人	+250.0%	12.2%	3,400 人	3,400 人	+70.0%	12.7%
香港	13,900 人	13,900 人	+54.4%	20.2%	0 人	0 人	皆減	0.0%
アメリカ	800 人	800 人	+60.0%	1.2%	100 人	100 人	△80.0%	0.4%
その他	4,500 人	4,500 人	+73.1%	6.6%	11,800 人	0 人	+16.8%	44.0%
合計	68,700 人	68,700 人	+71.8%	100.0%	26,800 人	15,000 人	+19.1%	100.0%

各方面ごとの概況と見通し

東京

6月は、音楽・スポーツイベント等の誘客効果もあり、前年度を上回った。企業の業績改善を背景に社員旅行などの団体旅行も好調であった。商品単価も上昇している。
7月は、上旬の台風の影響が懸念されるが、深夜便を含め沖縄への順調な送客が見込まれることから、好調に推移する見込み。

大阪

6月は、関西・神戸ー那覇路線は減少したものの、伊丹ー那覇路線の好調により、関西方面としては前年度より増加した。旅行商品の早期販売により、6月の需要の落ち込みをカバーした旅行社もあった。
7月以降は、予約が順調に伸びており、今後駆け込みでの需要も期待できることから、夏場に向けて好調に推移する見込み。

福岡

6月は、低価格帯商品や特典付きの旅行商品を中心に集客を伸ばし、前年度を上回った。
7月は、予約状況が好調であり、中旬にはピーチアビエーションの福岡ー那覇路線の新規就航も予定されていることから、前年度を上回る見込み。旅行商品は本島方面が中心だが、離島方面では直行便利用の商品が人気である。

名古屋

6月は、団体旅行の好調などにより前年度をやや上回った。本島路線が集客を伸ばしており、石垣直行便は新石垣空港の開港効果があった前年度に比べ鈍化している。
7月以降は、予約状況が前年度以上で推移しており、名古屋ー那覇路線で増便が予定されていることから、増加する見込み。

台湾

6月は、エバー航空の新規就航、華信航空の増便などにより空路客が増加した。また、スーパースターアキュアスの寄港により、海路客も好調に推移した。
7月は、台風8号の影響で航空便・クルーズ船に欠航が出たが、中華航空の高雄ー那覇路線の増便など航空路線の拡充やクルーズ船の寄港回数の増加により、空路・海路ともに前年度を上回る見込み。

韓国

6月は、上旬に最大5日間の連休があり、連休以後も繁忙期を避けての早い夏休み客の需要があったことから、前年同月を上回った。連休中のチャーター便や一部の便で機材の大型化があり、空路客が増加した。
7月以降は、夏休みの旅行需要や日本向けインセンティブツアーも回復傾向にあることから、好調に推移する見込み。

中国本土・北京

6月は、新たに就航した天津航空の天津ー那覇路線のチャーター便が高い搭乗率で推移しており、空路客を中心に前年同月を上回った。また、チャーターツアーがあったロシアからの観光客も大幅に増加した(前年度100人→今年度600人)。
7月以降は、瀋陽・大連発のチャーター便が予定されており、中国東北部からの観光客の増加が期待できる。

中国本土・上海

6月は、上旬の連休による旅行需要と中国東方航空の上海ー那覇路線の増便など航空路線の拡充、上海発クルーズ船の寄港により、空路・海路ともに好調に推移した。
7月以降は、夏休みにより旅行需要が増大する時期であり、吉祥航空の上海ー那覇路線の夏期増便やクルーズ船の寄港が予定されていることから、前年度より増加する見込み。

香港

6月は、訪日旅行の人气が継続しており、沖縄方面についても団体・個人旅行ともに販売状況が好調であるため、前年度を上回った。航空会社の搭乗率も上昇傾向にある。
7月以降については、夏休みの旅行需要の高まりに加え、前年同時期に比べ航空路線が拡充していることから、引き続き空路客を中心に好調に推移する見込み。